

	生涯学習の拠点として特に必要なもの	検討する際に留意する点	具体的な内容	どのような施設・設備が必要か	資料2
1	・踊り、スポーツの研修を目指す場所	・具体的な踊りとスポーツの種類 ・具体的な研修（目指すこと）の内容	・踊りの教室 ・踊りのリーダー育成→そこまでする必要があるか（場所提供などの支援だけでも良いのではないか） ・「習う」から「教える」のステップアップの難しさ、支援必要		
2	・泳ぎを練習	・具体的な泳ぎの種類 ・具体的な練習の仕方	・一般利用者（自由遊泳）と講座受講者（練習者）の区別（レーン）	プール	
3	・技術的失業を防ぐ手段を学習できる	・技術的失業とは何かの説明 ・手段だけが防ぐ手立てであることの判断理由	・ハローワーク、職業安定所、文化センターなどとの連携 ・青年層を対象としたリスキリングの講座 ・起業の支援 ・図書館にコーナーを設置、コンサルタントを配置	・リスキリングに関する資料を整備する（起業の資料も含む）	
4	・学習に限定せずに、防災、減災など複合した機能を持たせる	・防災・減災の範囲（例えば、個人で行うことか、地域で行うことか等）	・オープンスペースに防災備品を整備 ・防災教育の場として充実させる、防災の担い手の育成 ・防災自主グループの支援	・防災備品の整備 ・体験（実技）設備	
5	・必要な情報が得られる場	・誰にとって何のために必要である情報なのか	・Webサイトの充実（生涯学習全般の情報が分かる） ・チャットGPTでの活動相談などの活用	・施設の外に向けたデジタルサイネージ（テロップなど）	
6	・同じような悩みや学習したいことを持っている人に出会える	・不特定多数が悩みや目標を共有しあえる具体的な手段は何か（出会いは対面か、オンラインか、あるいは相談員を介在させるのか等）	・生涯学習相談会の実施（オンライン・対面） ・相談できる場を作る	・カフェテリア（気軽に集える場）	
7	・学びたいこと、知りたいことについて誰もが気軽に入れる場	・気軽にという観念にある範囲は、対面か（24時間？8時間？）、電話やネット相談も含めるのか	・オンライン（SNS）の活用 ・チャットボットでの対応		
8	・老若男女、国際人のいる場	・国際人とはどのような人なのか（留学経験者？母語以外の言語が話せる人？海外在留経験者？）	・在住外国人と交流（出会う）できる場の提供→つながりづくり		
9	・クリエイティブな場	・クリエイティブとは、誰にとって、どのような状態であるのか（判断水準は何か）	・創作 ・多様な人が集まる場の提供		
10	・学びについて相談できる	・学びの範囲は、誰を対象に、どのようは範囲なのか（受験や資格試験も含むのか、技能ならその範囲など）	・6と同様		
11	・学びたい人と学び返してできる人をつなぐ	・学習要求の把握と、提供の把握はどのような手段なのか（対面で相談か、オンラインか、あるいは仲介者を介在させるのか等）	・サポーター制度の充実		
12	・そこに行けば生涯学習のすべてがわかる	・生涯学習の「すべて」が表す範囲はどのような項目か		・生涯学習に関する書籍、資料、映像の整備とアーカイブ	
13	・興味があるテーマについての講演会が行われている	・不特定多数の市民がイメージする、其々の興味はどのように把握するのか	・多くの人が参加する講座（講堂） ・興味は過去の実績から分析 ・18.19とも関連		
14	・アドバイスをもらえる場	・何についてのどのような要求に基づくアドバイスカを判断することは可能かどうか	・6.10と同様		
15	・市民に親しまれ来場経験の多い施設	・来場数の把握には、ある程度、市民の情報を提供してもらう必要がある。情報提供の手段はあるか（施設利用には市民カードの提示を要求するなど）。	・市民に親しまれる施設である必要性 ・ポイント制の導入（ポイントが貯まると特典がある等）	・入りやすい入口（明るさ、雰囲気） ・ソーラー発電	
16	・独自で収益をあげる事の出来る施設	・具体的な収益事業の業務範囲、収益事業に割くリソースなど			
17	・最先端の取り組みができる施設	・常に最先端の取り組みを更新するべきかどうか（コストはどの程度かけてよいのか）	・主にテクノロジーなどの変化を伝える講座 ・時代の先を読んだ技術などを伝える講座 ・講座の取捨選択		
18	・大規模な企画を実施できる施設（インフラ、人材、能力）	・「大規模」はどの程度の量なのか。例えば参加者数が市民の1%か3%か、Youtubeで配信するのかなど	・生涯学習センターの企画（講演）を他の施設（ルミエール、プラッツ）でも行う ・16とも関連		
19	・一番集客力のある施設	・比較する施設群はなにか（プラッツや文化センター？）。何を基準にするのか（物理的なキャパシティ、イベントの参加者数、企画展など）			
20	・講座等を通じた学習機会を提供し、青少年や地域住民全体の人間力の育成をするため、学校・家庭・地域の連携交流の拠点	・具体的に連携交流することの状態は何を表すのか。	・高校の科目である探究のテーマを生涯学習センターでも見つけることができる		
21	・高齢者から子供までが利用できる「学習の場」	・具体的に年齢層ごとの学習施設配分はどうするのか。エリアで分けるのか時間帯で分けるのかなどの運用の仕方はどうするのか	・高齢者と子どもと一緒に学べる	・ワークショップルーム（自由にレイアウトできる部屋） ・料理室	
22	・社会教育のあり方として人づくり、つながりづくりという学びと活動の好循環を生ませる拠点	・人が作られた状態、つながりが作られた状態は具体的にどのように把握すればよいのか			
23	・縮小化社会の施設として、生活支援の働きも有するべき、例えば教育ボランティアの活動の場である等	・具体的に生活支援が示す範囲は何か、教育ボランティアはいるのかどうか、あるとしてその管理と運営はどうするのか	・不登校の子どもたちへの支援 ・福祉 ・フリースクール		